



↑空調レバーの上に、四輪駆動(FDと書いた赤いスイッチ)、チョーク(□に斜線)、ワイパー、ハザード(赤い△)のスイッチがある。チョークとは気温が低い時にエンジンを始動する際に、空気の流入量を絞る(締め上げる=choke)ことで燃料の濃度を上昇させ点火しやすくさせる装置のことである。だが燃料が濃すぎると点火プラグが燃料で濡り(「かぶる」という)エンジンが止まってしまうことがあるので注意が必要だ。



↑助手席のサイレンアンプ。



↑メーターパネルは、アナログでシンプルな表示になっている。約35年経過しても走行距離は約1万キロである。



↑空調の隣に左から標識灯、ゲージエンジン室内灯、室内灯、赤色回転灯のスイッチがある。赤色回転灯のスイッチは2段階になっており、1段階で赤色灯が点灯、2段階で回転する。



ハンドルはパワーステアリングが付いていないため非常に重たく、据え切りはほぼ不可能だ。ライトのスイッチは現在の一般的な車と異なり、運転席右側に車体から飛び出すようにしてある。ウィンカーは同じ位置にあるがレバーが細い。

上/後席のシート下のポンプ。
下/ドアを外した際に使用する落車防止のベルト。



前列シート



後列シート

シートは固定されているため、リクライニングや前後の移動はできない。共にタイトな作りで後列はとくに狭い。



エンジンは2F型、ガソリンエンジンを搭載したキャブレター仕様。



リアの荷台に装備された可倒式のシート。これにより前席2名、後席3名、合計5名の7名が乗車可能となる。



35年選手のポンプ車が待機する中頓別消防団の屯所。



執筆者 炭谷貴博

南宗谷消防組合中頓別支署 庶務グループ主査、救急救命士。消防司令補。クルマにもバイクにも精通し、休日には洗車して過ごす。単行本、雑誌投稿など著作多数。

使用する。車両前面にはエンジン始動用の手回しクランクがある。回すレバーは車両の後ろに積載されており、車両の側の穴に通して使用するが、筆者は一度も使ったことがない。

後ろの荷台には可倒式のシートが装備されておりこれにより前席2名、後席3名、荷台2名の7名乗車が可能となる。中頓別町敏音知地区を35年間守り続け、今もなお現役で活躍の「泉龍」。長年使用していることもあり、深く愛着を感じている1台である。今後の活躍も期待したい。



1/車両前面のエンジン始動用の手回しクランク。回すレバーは車両の後ろに積載され、フロントバンパーの穴に通して使用する。
2/車体側面にある計器類。左から連成計、圧力計、エンジンロットル。
3/シートベルトには、織装会社の「モリタ」の文字が見える。



敏音知地区を35年間守り続け今なお現役。今後も活躍が期待される泉龍。

写真・文◎炭谷貴博

北海道を駆ける現役!のクラシック消防車

「泉龍」トヨタランドクルーザーFJ56型改

古い消防車ファンのみなさん、北海道には今でも活躍するクラシック消防ポンプ車があるのをご存知ですか?今回は北海道の北側に位置する南宗谷消防組合中頓別消防団で今も活躍している古い消防ポンプ自動車を紹介しよう。



ランドクルーザーのフロント。サイレンのスピーカーは車両両脇に設置されている。

南宗谷消防組合中頓別消防団に、配備から35年経った今も現役で活躍するポンプ車がいる。名前は「泉龍」。配置されている中頓別町字敏音知は、温泉が湧き出ている地域であることから、温泉の「泉」と、消防車名に多く使われている「龍」を組み合わせて「泉龍」と名付けられた。「水が豊富な泉によつて、火災現場で水利確保に苦勞することなく、消火活動ができるように」という先人の願いが込められた車両だ。

初年度登録は昭和54年9月で、シャーシはトヨタランドクルーザーFJ56型をベースとし、森田ポンプで機装された。ボンネット型のダブルキャブでホイールベースが2m以上3m未満なので、消防ポンプ自動車の形式区分はBD1型となる。車両には幌を加工したドアが装備されており、走行すると隙間から風が入ってくるので夏は快適だが、冬はすごく寒い。エンジンは2F型で、ガソリンエンジンを搭載したキャブレター仕様である。ハンドルはパワーステアリングが付いていないため、非常に重たく、据え切

りはほぼ不可能だ。メーターパネルはアナログ表示で、約35年経過しても走行距離は約1万キロである。駆動方式は普段はリアドライブの二輪駆動で、スイッチを入れると四輪駆動になるパートタイム4WDである。ミッションは4速マニュアル。ポンプを動かす際にはトランスファーズをマニュアルにし、ミッションを4速に入れ、ボンプレッシャーを引くことで動かすことができる。

前席のシート下にバッテリーと小物入れがあり、後席のシート裏にボンプが位置する。後席席上部には燃料タンクも位置する。給油は車両の後ろから幌の中をくぐって行う。ドア付近には落車防止のベルトが付いており、ドアを外した際に

ボンネット型のダブルキャブでホイールベースが2m以上3m未満なので、消防ポンプ自動車の形式区分はBD1型となる。

